

## 四十周年式典式辞

本日島根県立隠岐養護学校の創立四十周年式典を開催するにあたり、隠岐の島町長 池田高世様をはじめ、隠岐郡各町村、福祉サービス事業所及び本校児童生徒の活動にご支援をいただいております多くの皆様方のご臨席を賜りましたことに対し、まずお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、現在、障がいのあるものとなないものがともに学ぶインクルーシブ教育が提唱され、本校も相談支援活動などを通じて、体制の構築に取り組んできております。

本日四十周年を迎えるに当たり、「ともに学ぶ」こと、さらには「ともに生活し働くこと」を実現するためにこの隠岐の地でどのような取組がなされたのかをふり返るとともに、今後本校が果たすべき役割について述べたと考えます。

なお、現在定着しております支援学級という言葉を用います。ご理解をお願いいたします。

本校が創設される以前、障がいがある子どもの教育は、小中学校の支援学級で行われていましたが、法令により、学級に通えない子どもの就学は猶予されており、学びの機会が完全には保障されてはおりませんでした。

昭和四六年、現在隠岐病院が建っております場所に、障がいがある子どもの生活の場として「杉の子学園」が作られました。

隠岐各地より三十名の子どもたちがこの地に集まり、通学ができる子どもは、西郷小学校・中学校の支援学級で学びはじめました。当時の統計をみますと、杉の子学園開園前、西郷小学校の支援学級児童数十二名が、開園の年には二十二名となっています。多くの児童生徒の教育に当られた当時の先生方の苦心は大変なものであったと推測いたします。ただ、その学級には重度障がいの児童生徒の姿はありませんでした。学園に留まらざるを得なかったのです。加えて在宅の子どもが存在したことを忘れてはなりません。

この状況を打開するため、昭和四九年学園内に「ひまわり学級」を開設するなど地道な取組がなされている中で、障がいがある児童生徒の就学義務が始まる五四年度が近づきました。「隠岐の子は隠岐で育てる」という言葉のもと養護学校設置の働きかけが県教育委員会及び県知事になされ、その熱意により、松江養護学校の分校であった当初の計画が変更され、隠岐養護学校として創設されるに至りました。本式典にあたり、本校の創設にご尽力いただきました方々に深い感謝を申し上げます。

さて、本校の開校は大きな一歩でありましたが、中学部を卒

業した生徒の学びの場、生活の場・働く場の確保等が次なる課題として立ち現れました。

課題解決に向け、昭和五五年仁万の里が作られました。その後平成二年に「みんなの作業所」、平成一八年に「あじさい」が立ち上げられ、本校卒業生の生活の場、働く場が拡充されました。平成八年度に開設された高等部卒業生は、それぞれの事業所と連携することで、「隠岐で働く、生活する」基盤を得ることができました。この地に存在していなかった施設を立ち上げ、そして発展に力を注いでこられました方々に改めて敬意を表したいと存じます。

福祉就労の場の確保が進む一方、企業での就労を期待する保護者生徒の希望が高まって参りました。本校は地域のご理解を得て、高等部開設当初より年間五週間の現場実習を行い就労の場の拡大に努めて参りました。平成二四年度県の事業で配置された就労支援コーディネーターの地道な取組により就労の場が一つ、また一つ開拓され、それを契機として、現在、県内でも高い一般就労率を実現するに至っております。

この流れは、本校卒業生に就職促進事業補助金の適応をいただきました隠岐の島町、就労のためグループホームなどの手を配をいただきました海士町など各町村、及びハローワーク、隠岐障害者就業・生活支援センター太陽の皆様のお力でより確かなものとなりつつあります。重ねて感謝申し上げます。

卒業後の生活・就労の場の確保とともに、現在本校は、各町村と手を携えて、特に保育園段階での相談支援に力を注いでおります。早期の気づき、そして療育により、保育所での活動が円滑になり、保護者の不安を薄めることができつつあります。その取組を小学校へ、小学校の取組を中学校、高校へとつなげていければ、今以上に生徒の学びが保障されるに違いない。そう確信をしております。

その際、一つのハードルがあるように平素感じております。それは、保護者をはじめとする関係者の理解であります。

本校ができて四〇年経過しておりますが、前半で申し上げましたように障がいがあることで学べない時期、就労先が確保できなかった時期がありました。過去の記憶は、様々な形で人々の判断に枠を作っています。

鳥取大学で特別支援教育を担当されている三木裕和教授は、障がいがある子どもの保護者に必要なものは、「この子はなんとかなるかもしれない」という希望であると言われています。

現在取り組んでおります保育所などへの相談活動、小中学校及び隠岐高校、隠岐水産高校等との交流学习、関係機関と力を合わせて実現している就労先の確保と継続への取り組み。これらが保護者をはじめとする地域の方々の「希望」となることを切に願いながら本校は取り組んでおります。そして、

「希望」という光が一人また一人と伝えられていくことで、障がいの理解に対するハードルが低くなっていくことを信じ、これからも歩みを進めてまいります。

変わらぬご支援をお願いいたしまして式辞といたします。

令和元年十一月十六日

島根県立隠岐養護学校長

赤山 克司